

2021年12月

教育史学会 事務局 御中

共同研究グループ「フィールドワークとハラスメント」

代表：大友瑠璃子（北海道大学）

〒060-0817 北海道札幌市北区北17条西8丁目

Email: [sub.fieldworkandsafety@gmail.com](mailto:sub.fieldworkandsafety@gmail.com)

「フィールドワークにおける性暴力・セクシュアルハラスメントに関する実態調査アンケート」の周知へのご協力をお願い

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

このたび、共同研究「フィールドワークとハラスメント」におきまして、「フィールドワークにおける性暴力・セクシュアルハラスメントに関する実態調査アンケート」の実施を計画しております。つきましては、貴学会に本アンケートの周知へのご協力を賜りたく、お願い申し上げます。

本アンケートの実施主体である共同研究グループ「フィールドワークとハラスメント (HiF)」では、フィールドワーカーがフィールドにおいて遭遇するハラスメントの被害の実態、それらの多岐に渡る背景事情を把握し、学术界・社会に広く発信していくために日々活動しております。

近年、全国の教育研究機関や学会のなかで、セクシュアルハラスメントやアカデミックハラスメントを含む様々なハラスメントへの防止対策が講じられるようになりましたが、フィールドワークという研究機関を離れた場所でのハラスメントについては、実態把握と対処が難しい状況です。また、学問分野によってフィールドワークにも多様なカタチがあり、そこで起こるハラスメントの構造も様々です。研究者や学生のよりよい研究環境の構築・維持のためにも、また、学問分野ごとの対策方法の検討のためにも、フィールドワーク中に起こるハラスメントの実態を把握することが急務であると考えています。被害と対策の実態調査は、様々な立場でフィールドワークを行う当事者だけでなく、フィールドに学生を送り出す教員にとっても、有用な情報になります。

この度実施予定のアンケートは、以上のような背景をもとに、フィールドワーカーがフィールドで直面する性被害とその対策に関する実態把握のために行うものです。被害事例に関する情報収集を通して、フィールドで起こる性暴力についての対策と啓発をより充実させていくことを目的としています。

なお、本依頼は、国内のすべての学会に対して行っております。主たる研究手法がフィールドワークではない学問分野におかれましても、なかにはフィールドワークを行う研究者がおられる可能性があります。そのような方こそ、フィールドワーク中の性暴力について声をあげる機会が少ない可能性があり、その声を掬い上げることは大切であると考えております。そのため、学問分野や研究手法にかかわらず周知へのご協力をいただきましたら幸甚です。ご多忙のなか恐縮ですが、ご検討のほどよろしくお願い申し上げます。

記

1. 調査名：「フィールドワークにおける性暴力・セクシュアルハラスメントに関する実態調査アンケート」
2. アンケートの趣旨（添付資料1をご参照ください）
3. アンケート項目一覧（添付資料2、資料3をご参照ください）
4. 調査目的：フィールドワーク中に起きた性被害とその対策・対処についての実態把握
5. 使用言語：日本語または英語
6. 実施時期：2022年1月15日～2022年2月15日（予定）
7. 実施形式：Google Formを利用したウェブ・アンケート
8. 倫理審査：名古屋大学倫理審査委員会による審査・承認済み（承認番号：NUHM-21-009）
9. アンケート結果の公表：報告書や論文の形にまとめたものをWEB公開し、ご協力いただいた学会に後日送付
10. 実施主体：共同研究グループ「フィールドワークとハラスメント」（HiF）  
<https://safefieldwork.live-on.net/>
11. 後援：一般社団法人男女共同参画学協会連絡会 <https://djrenrakukai.org/>
12. 問い合わせ先：[sub.fieldworkandsafety@gmail.com](mailto:sub.fieldworkandsafety@gmail.com)

以上